

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第8回 廃棄体放射能評価分科会 (F10SC) 議事録

1. 日時 2006年7月10日 (月) 13時30分～15時20分
2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 川上 (主査), 松村 (副主査), 傳田 (幹事), 市川, 坂下, 樋口,
古谷 (議事5. (3)より), 本山, 森本, 山崎 (10名)
(代理出席委員) 田中 (池戸委員代理), 中西 (西谷委員代理) (2名)
(欠席委員) 竹下 (1名)
(常時参加者) 尾崎 (1名)
(欠席常時参加者) 吉澤 (1名)
(発言希望者) 阿部 (1名)
(傍聴者) 林, 榊原 (2名)
(事務局) 厚
4. 配布資料
F10SC8-1 第7回廃棄体放射能評価分科会議事録 (案)
F10SC8-2 東海発電所 (炭酸ガス冷却型原子炉: GCR) 低レベル放射性廃棄物の放射能濃度決定方法について
F10SC8-3 「放射性廃棄物の放射能濃度決定方法—原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に関する基本手順: 2006 (案)」に対するコメントについて (改定2)
F10SC8-4 放射性廃棄物の放射能濃度決定方法—原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に関する基本手順: 2006 (案) (改定3)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局から、代理出席を含め開始時点で11名の委員の出席があり、決議に必要な委員数（9名以上）を満足している旨の報告があった。また、阿部 昌義 氏（標準担当委員／（財）放射線計測協会）より発言希望者として、林 宏一 氏，榊原 哲朗 氏（日本原子力研究開発機構）より傍聴者としての届出が事務局を通じて主査に出されており、主査がこれを了承している旨、紹介された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録は、承認された。(F10SC8-1)

(3) 人事について

事務局より、本日の分科会を持って池戸委員（日本原燃（株））の退任届けが主査に出されていることが報告された。

傳田幹事より、田中 雄司 氏（日本原燃（株））の委員候補推薦があった。

決議の結果、委員として選任された。

(4) GCRから発生する低レベル放射性廃棄物の放射能濃度決定方法について

GCRから発生する低レベル放射性廃棄物の放射能濃度決定方法が固まってきたことから、これを当分科会で作成中の標準化対象に加えるという方針に基づき、F10SC8-2の資料に沿って、GCRから発生する廃棄物の概要、放射能濃度決定方法の状況について説明があった。

本件に関する主なコメント等は以下のとおり。

- 今回説明のあった GCR から発生する廃棄物の放射能濃度決定方法については、原子力安全基盤機構殿の廃棄確認技術検討委員会での審議を経たものであるとの補足説明があった。
- Nb-94, Tc-99 で検出限界値を計算される平均値から平均放射能濃度を決定する際に、安全裕度 1.2 倍を乗じていることへの質問があり、従来の軽水炉において適用されている設定方法に準じているという説明があった。
- I-129 と Cs-137 (Key 核種) の相関係数が小さいことへの質問があり、放射化分析で測定精度を上げて分析したが検出データ数が少なく、結果的に良好な相関係数を得るまでには至らなかったという説明があった。

(5) 標準原案の検討について

前回分科会でのドラフト (F10SC7-3) について各委員より提示されたコメント及びGCRの放射能濃度決定方法を加えることによる反映方法の案について、F10SC8-3の資料に沿

って、説明があった。

また、F10SC8-3のコメント反映案をそのまま反映した場合の現時点でのドラフトについて、F10SC8-4の資料に沿って、説明があった。

本件に関する主なコメント等は以下のとおり。

- 説明者より、F10SC8-4の資料の中で一部図の改行の仕方が十分ではないが、今後修正予定との補足があった。
- 主査より、各委員がいろいろとコメントを出しておられることから、標準化図書の完成度が高まってきているという包括的なコメントがあった。また、今後、上の委員会で審議される中で言葉の吟味（例えば、放射能は既に量の概念があるので、放射エネルギーという表現はおかしいかも知れない）を受けていく可能性があるとの指摘もあった。
- 資料の中で、IGSCC（粉体応力腐食割れ）はIGSCC（粒界応力腐食割れ）と訂正するようにとのコメントがあった。
- 資料の中で、GCRの部分の記載について、「H-3が水と同一の挙動を示す」についてはトリチウム水となることから水と同一の挙動という意味であろうが、誤解されるので、軽水炉の表現に合わせて、「トリチウム水が水と同一の挙動を示す」と読めるように修正するようにとのコメントがあった。
- 標準化タイトルの（社）日本原子力学会標準の（社）は削除するようにとのコメントがあった。
- 付属書1を参考とするのか、規定とするのか位置付けを明確にするようにとのコメントがあった。現在は、前者のタイトルとしているが、この場合は、規定ではないことを明記する必要があるとのこと。

（6）今後の予定について

幹事より、今回はかなりの修正があったので、再度分科会で検討をすることとし、そのためのコメント（F10SC8-4に対する）を7/21期限として幹事までに送付することとしたいと説明があった。これを受けて、上の委員会への報告等を行っていくこととなる。

6. その他

次回分科会を2006年9月25日（月）13:30～に実施予定。

以上